



Farmer More

—より稼げる産業に—

阪口弦 齊藤瑛人 埜口竜吾 小松巧武

【企業概要】

農家の自立的経営を目的としたコンサルティング事業

- 新しい販売先確保の提案
- 情報提供

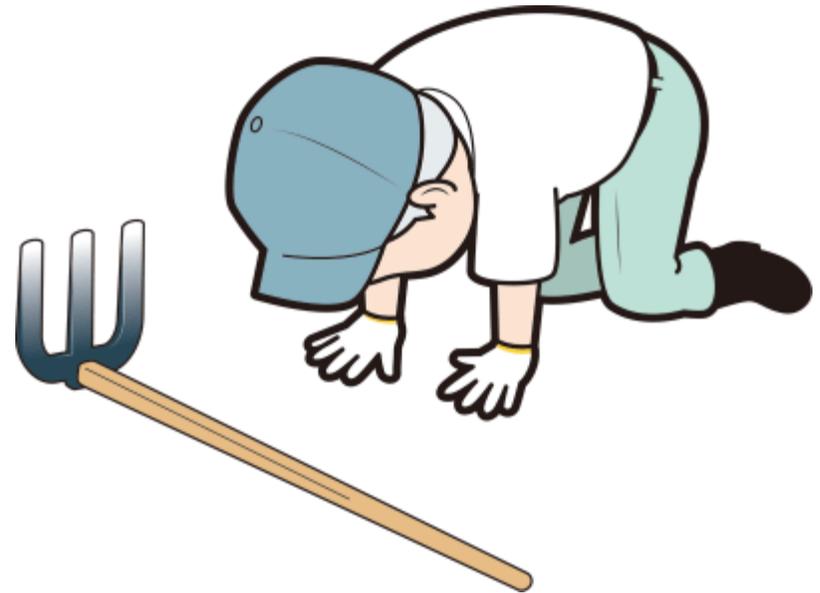
【農業界の近年の状況】

(2022年マイナビ農業調査)

経営規模別にみた「利益が上がらない」と答えた人の割合



他業界と比べて、
各農家のマーケティング力は低い！

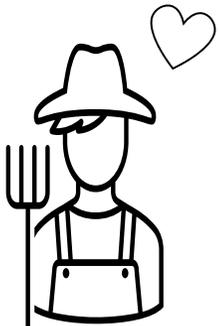


【JA (農業協同組合) について】



農作物の集荷・販売・指導等を行う機関

メリット



販売先の確保が不要
(生産に集中できる)

営農指導が受けられる

デメリット

マーケティング力が育たない



消費者と距離がある

野菜の規格が厳しい

買取単価が安い

【企業理念】

的確な提案をもって農家の収益を拡大し
農業界にビジネス的な視点を構築する

- 農家の業務効率の向上と、自立的な販売網・流通の確保
- 豊富なバリエーションと柔軟かつ的確な提案

【事業内容】

農家の自立的な経営の為に 新規の販売先や事業改善に関する コンサルティングを行う



例) 農家toスーパーの関係の構築
近隣の飲食店に規格外野菜を販売
自販機を利用し店舗を持たない自主販売

【情報提供と活用】



自社から・個人で得た情報を活用できるように指導

サブスクリプションモデルを用意

→継続して需要等の個人に合わせた情報をAIを活用し提供

生産面の情報提供も行う

国から補助金が手に入るIoTやIT導入を推進

→農家への負担を少なく情報収集システムを構築

【その他】

農家の兼業率は67.4%（2020年農林水産省）

→兼業として実際の農家さんを雇用し

現場に寄り添った改善を実現

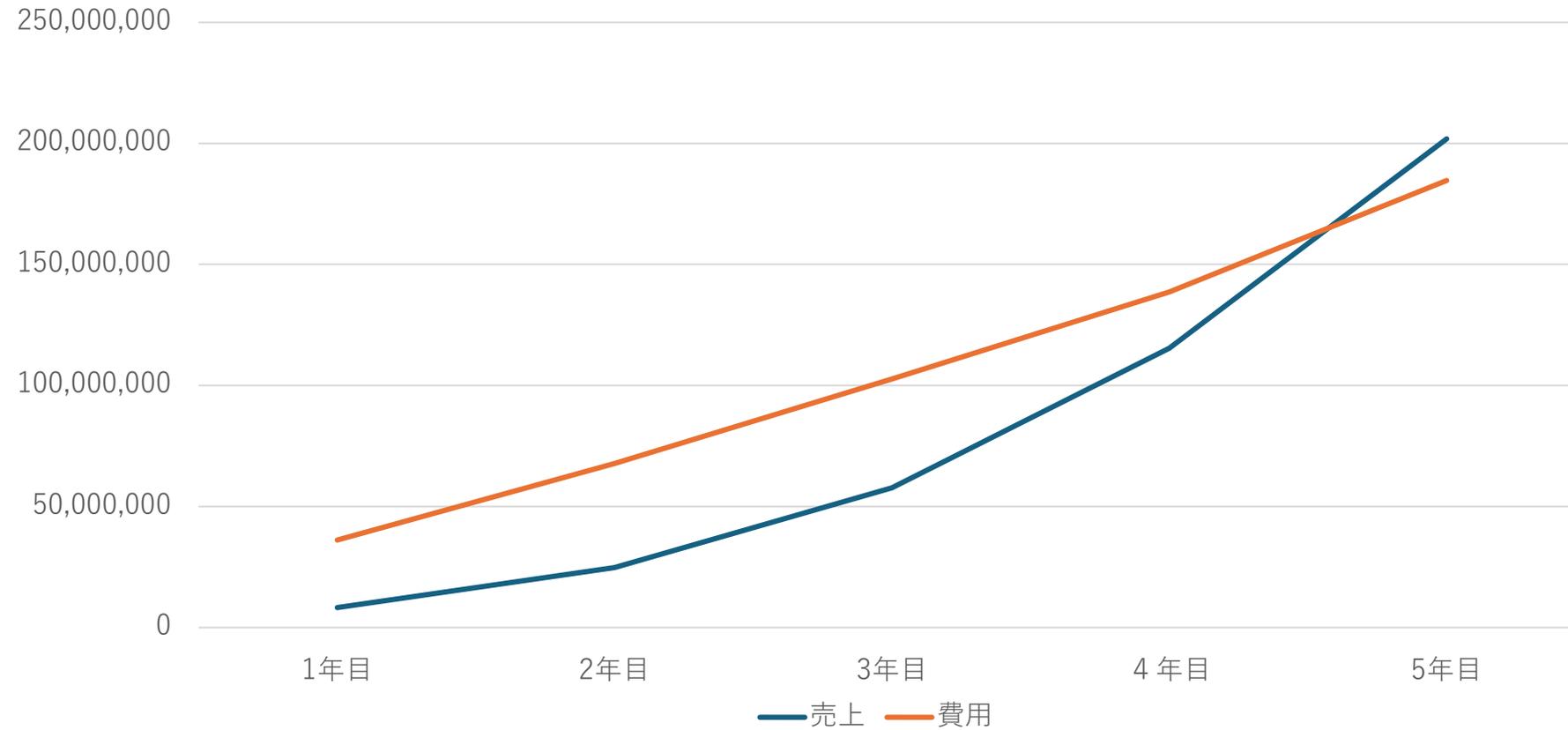
【料金】

個人の状況を考慮し対応
基本的に市場の相場に合わせる



販売・事業提案＋情報提供	平均20万/月
情報提供 Aプラン	平均0.3万/月
Bプラン	平均1.5万/月

収益モデル



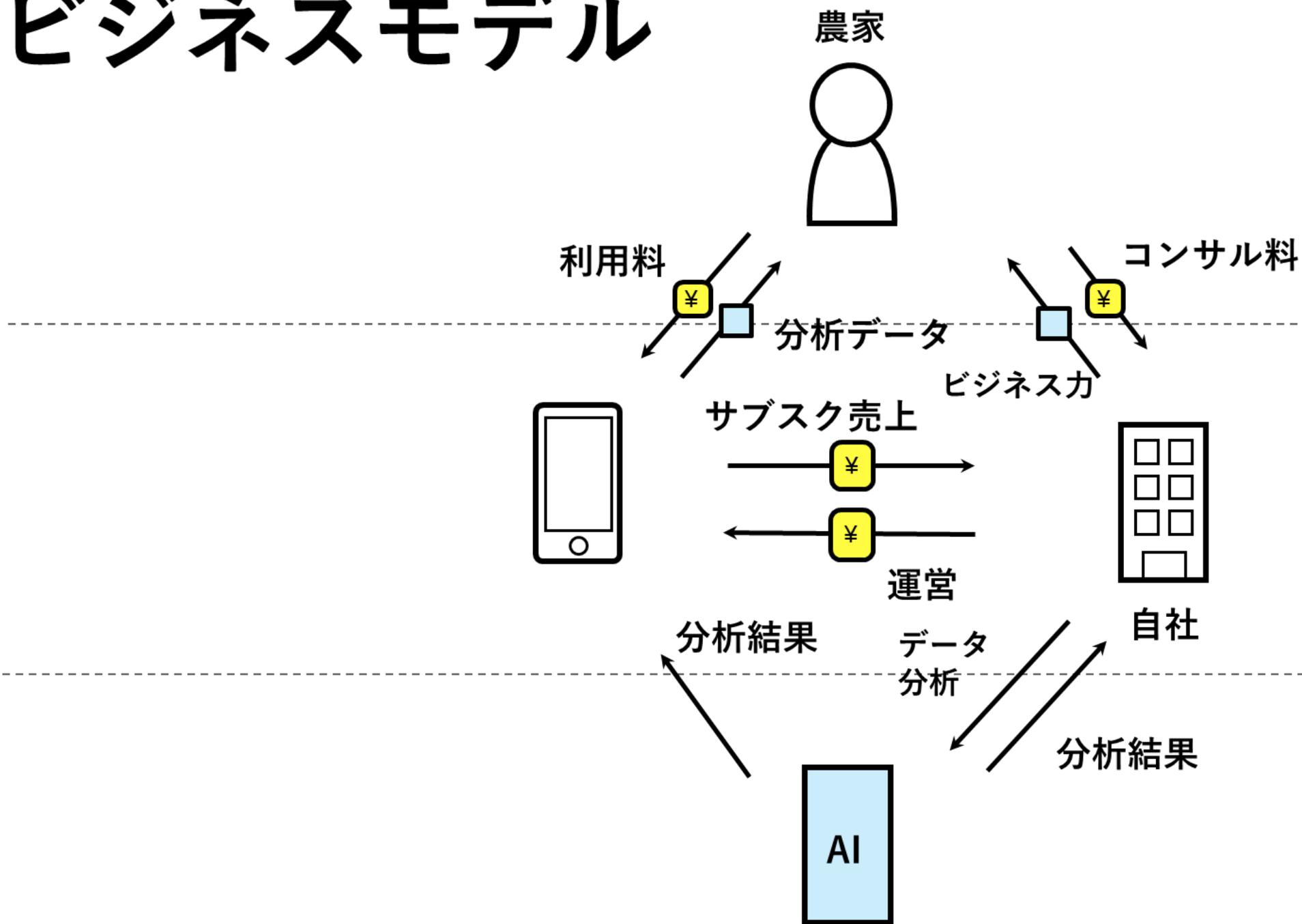
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
売上高	8,240,000	16,480,000	32,960,000	57,680,000	86,520,000
費用	36,142,000	31,572,000	34,956,000	36,000,000	37,000,000
合計	-27,902,000	-15,092,000	-1,996,000	21,680,000	50,520,000

マーケティング力をつけて利益最大化

農業をより魅力的な産業にし、
農家を減らさず、増やし続ける

Farmer More

ビジネスモデル



SWOT分析

Strengths (強み)

- ・ 農業向けに特化した需要予測、データ分析、マーケティング支援を提供することで、農家に効率的な経営支援。
- ・ 一度のコンサルティング後も継続的なサポートをサブスクリプションモデルで提供し、安定した収益源を確保。

Opportunities (機会)

- ・ 農業分野でもデジタル化が進んでおり、AIを活用した効率化やデータ活用の需要が高まり。

Weakenesses (弱み)

- ・ AIシステムの導入などの初期投資が高い
- ・ 農業とAIに関する深い理解が求められ、チームメンバーの専門性が不足している場合、品質の確保や顧客対応が難しくなる可能性がある。

Threats (脅威)

- ・ 農業向けAIやコンサルティングを提供する他の企業が増加。
- ・ 天候不順や市場の変動による農業業界の不安定性

競合分析

- **農業情報プラットフォーム**

- 弱点: パーソナライズの欠如、情報が一般的。
- 差別化: 貴社は農家個別の需要に基づく具体的な提案を提供。

- **農業コンサル企業**

- 弱点: 高コスト、大規模農家中心で中小農家に対応不足。
- 差別化: 中小規模農家に特化した手頃な価格のサービス。

- **AI農業ツール企業**

- 弱点: 日本市場特有の課題に十分対応できていない。
- 差別化: 国内市場向けにカスタマイズした精密なデータ分析。

差別化ポイント

- **中小農家をターゲット:** コストパフォーマンスが高く、導入しやすい。
- **サブスクとコンサルの組み合わせ:** 長期的にサポートを提供。
- **パーソナライズされた提案:** 地域や農家特性に応じた具体的戦略。
- **日本市場に特化:** 国内特有の農業課題に対応可能。

システム費用

初期開発費用

- **需要予測モジュール**

- 初期開発費: **300万円～600万**
- 内容: データ収集、アルゴリズム開発、モデルのトレーニング。

- **データ分析ダッシュボード**

- 初期開発費: **300万円～800万円**
- 内容: 農業データの可視化ツール、レポート生成機能、リアルタイム分析。

- **マーケティング支援機能**

- 初期開発費: **400万円～900万円**
- 内容: 農家ごとのカスタマイズマーケティング戦略提案、AIチャットボットの導入。

- **統合プラットフォームの構築**

- 初期開発費: **500万円～1,200万円**
- 内容: 全機能を連携するシステム設計とインフラ整備。

- **合計初期費用: 1,500万円～3,900万円**

補助金

農林水産省の助成金・補助金

- ・ **農業経営支援事業**: 農業経営の改善や生産性向上のための支援金。
- ・ **スマート農業支援事業**: AIやIoTを活用した農業技術の導入を支援する助成金。
- ・ **農業新技術導入支援事業**: 農業で新しい技術や設備を導入するための支援。

中小企業向けの助成金

- ・ **ものづくり補助金**: 新しい製品や技術の開発を支援する補助金。農業技術や設備に関連する支援も対象となります。
- ・ **IT導入補助金**: 農業におけるIT導入（例: 農業用AIシステム）を支援する補助金。